

新岡垣風土記

第417回

古文書で探る庶民のくらし

—海妻甘蔵と岡垣—

岡垣歴史文化研究会 羽山 健一

海妻甘蔵は、岡垣町吉木に20余年居住し、私塾己百斎で郷土の青少年を教育した国学者である。幼名は己百、諱は直繩、静馬、久左衛門、甘蔵と称した。その略歴は次の通りである。

文政7(1824)年、福岡藩の儒者井土周盤の2男として誕生。嘉永2(1849)年、海妻家を継ぐ。

同3(1850)年、藩庁に右筆(参政書記)として出仕。呉服町(福岡市)で塾を開く。安政2(1855)年、執政書記となる。

安政4(1857)年、藩校の教授となり書物奉行を兼務。同年獄監(刑官)に転ず。

万延元(1860)年、排斥され職務罷免となる。

元治元(1864)年、池田(宗

像市)に隠棲し塾を開く。

慶応3(1867)年、藩に復帰し、鉄砲大頭役所取締役、文武館和学総裁を兼任。

明治2(1869)年、長男に家督を譲り隠居し、岡垣町吉木の勝業寺(廃寺)に転住。翌年、古小路に転居。

同6(1873)年、郷社祠官(高倉神社社務)で権大講義となる。

同13(1880)年、福岡県属となり学務委員を兼任。

同18(1885)年、福岡県属を辞任。

同24(1891)年、吉木から福岡に転居。

明治42(1909)年6月27日に歿す。

私塾己百斎は、明治2年の記録で塾生80名とあり、多数の塾生を輩出したのである。明治32(18

99)年10月22日、門下生が甘蔵の長寿を祝い、熊野神社(吉木区)境内に慶寿碑を建立した。その碑文に、先生帰福してなお吉木をけん恋して止まず、因って此処に建立した、とある。

海妻甘蔵の著書「己百斎筆語」は、甘蔵が目撃耳聞した記録である。全56話の内、岡垣に関する項目を紹介する。

- ◎岡垣客対に人材登庸をあやまる
- ◎遠賀吉木の百姓騒動
- ◎内浦海蔵寺の侍童長元寺の大黒
- ◎岡垣三吉村にて村役人白昼に幽霊と問答



▲海妻家岡垣町来町交流会記念 昭和55年7月27日撮影

- ◎百歳の農媪は筑前国主を叱す(野間の辻氏先祖)
- ◎三輪佐一郎は年魚を誤解す
- ◎岡垣戸切清泉の碑文
- ◎勲八等麻生彦市一人にて招魂祭を営む(吉木の麻生氏先祖)
- ◎高倉神社は古文書を奪はれ唐金トビを盗まる
- ◎亀石貞四郎七十祝能(内浦の亀石氏先祖)
- ◎遠賀の方言ヨネセス又ハシゴサウメン
- ◎榎原石田松子九十一歳にて養蚕す(戸切の石田氏先祖)
- ◎高倉神社大祭に祠官海妻甘蔵は露店の場税をとらず
- ◎吉木専農門司与一が漫遊中の奇事
- ◎主情の厚薄(吉木鐘崎屋の小文あり)
- ◎岡垣高倉山中瓜生の二故墳(吉木瓜生氏先祖)
- ◎遠賀郡波津浦の(海)苔と大嶋海苔は似て其性質同じからず
- ◎岡のはやしの由来
- ◎慶応三年丁卯正月の各家の格(三輪家の記事あり)
- ◎内浦貝を在東京深田鶴松に贈る文
- ◎遠賀郡岡垣矢矧二村合併に付村名の断定
- ◎直繩を憎む物は皆枉れる木なり(三輪十久壯の記事あり)
- ◎遠賀桃川藤一は金のうそを拾ふ(糠塚桃川氏先祖)

おわり